

仙人通信 129 三方分山(1422 m)

三方分山は精進湖の北側を取巻く様に、富士山に対峙した山である。精進湖の湖畔にある県営駐車場から女坂峠より尾根道伝いに本栖湖との間にあるパノラマ台そして、根子峠に戻り駐車場へ下山するコースとした。中道往還と言う河口湖・精進湖から甲府へと抜けるコースである、阿難（女）坂に向かう。周遊道から少し入った所にある諏訪神社に一礼しての登山である。沢で湿気があるのだろうか？ハコベ・タチツボスミレ等が元気で迎えてくれる。頭上ではキブシ・ヤマザクラ・ミツバツツジが満開だ。平な道から沢に沿った狭い登山道となり、路傍では地蔵様が安置され旧街道が忍ばれる。白いフスマ・マイズルソウ、ピンクのエイザンスミレそしてヒトリシズカも元気だ。ウグイスやシジュウカラも静かな山歩きを応援してくれているようだ。50分程で女坂峠だ。ここで左側への尾根道に入る。狭い尾根道の北側は急峻な斜面であるも余り視界が利かない。ブナ・ミズナラの中に紫のミツバツツジや白いマメザクラ・薄いピンクのヤマザクラそしてオオバクロモジも黄色い花を付けている。足元では、フモトスミレ・アオイスミレ・エイザンスミレだ。高尾山に負けないスミレの山である。なだらかな尾根道も30分位から急登となる。濃いピンクの花片だけを擡げた(葉はこの時期まだ無い)アケボノスミレを発見した。蛭ヶ岳で嘗て見た以来で、懐かしさが込み上げた。2cm程の花冠を付けたハルリンドウも見つけられた(踏まれない様に枯れ枝を周囲に立てた)。このコースの左側は、常に富士山が梢越しに望めるも、沢山の花で登山道の周囲から目が離せない。北面は唐松の新芽が萌え、希望を与えてくれるようだ。25分程で山頂に辿り着く。富士山側の木々が切り開かれた山頂から残雪の富士・大室山・青木ガ原が一望だ。更に小さな鞍部を登り詰めると15cm角の真鍮製の祠のある精進山(1409 m)で、すぐ横に三等三角点の大理石の石柱である。指で三等の『三』の文字を確認!!!急な下りを30分程下ると精進峠で精進湖へ下るコースがあるが、尾根を根子峠に向かう。鼻が鳴きながら、道案内をしてくれる長閑な山歩きだ。唐松林にミツバツツジ・マメザクラ・そして白いアセビも映える。40分程で根子峠である。峯を巻く様に平らで幅が1m以上もある遊歩道だ。山を構成している岩も粘板岩状に変わり15分でパノラマ台だ。(三方分山は周囲の地層と異なる『三方分山凝灰岩層』で作られた山で、パノラマ台は『中屋敷泥岩層』で構成されている山であり、確認するのも今日の目的の一つでもある。)正面に富士山・右に竜が岳や雨が岳と本栖湖が、左手には紅葉台・三つ峠・王岳等の御坂の山が・河口湖・西湖・精進湖と名前の通りパノラマの展望である。根子峠からは湖畔に向いブナの林の遊歩道である。多くのスミレの中にハルリンドウ・ニシキコロモそして一面にイチリンソウ更に崖ではピンクのイカリソウと花に埋もれた5時間半の山登りを楽しみました。(h 27. 4. 24)

パノラマ台からの三方分山と富士山



イカリソウ

